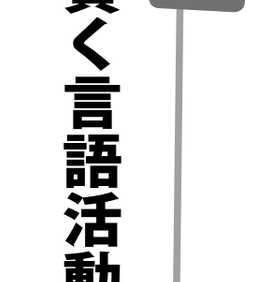
5 「単元を貫く言語活動」を設定した指導計画

玉川大学 教師教育リサーチセンター 教授
輿水かおり



学習指導要領の完全実施以降、「言語活動」をテーマにした校内研究を行う学校が目立つようになりました。これは、総則に示された「各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、（中略）言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。」（傍線筆者）によるところが大きいと考えます。

このことは、全ての教科で求められています。例えば、算数では解法の論理的な説明、理科なら実験観察レポートの作成、社会では資料に基づく新聞作りなどといった言語活動を盛り込むことで、児童の思考力・判断力・表現力の育成を図ろうとするものです。

では、国語科ではどうでしょう。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」という言語活動は、国語科の指導内容そのものです。今までの指導をどう変えればよいのか、とまどっている先生方も多いと思います。国語科における「言語活動の充実」はどうあるべきでしょうか。また、盛んに説かれている「単元を貫く言語活動」とは、具体的にどのような指導計画のうえに成り立つのでしょうか。

今回は、それらについて、定番の教材ともいわれる「ごんぎつね」（四年下）を取り上げ、具体的な指導計画を考えてみます。ある小学校の四年生を担任する三人（主任・中堅・新採を想定）の、学年会での話し合いの場面を想像してお読みください。

単元名と単元の目標・指導のねらい

中堅　次の国語の単元は「ごんぎつね」ですね。前に四年生を受けもったときに二か月かけてじっくり読み深めました。最後の場面では涙ぐむ子も……。

新採　ええっ、二か月。それじゃあ二学期が終わっちゃいますよ。保護者から進度について言われているのもあるし、そんなに時間をかけるのは無理です。

主任　指導書では十四時間扱い。二週間程度の想定ね。学習の手引きには、[1]詳しく読む、[2]感じたことや考えたことを話し合うという学習活動が示されています。「書く」のコーナーもありますね。まずは十四時間で指導計画を立ててみましょうか。

新採　単元名は「読んで考えたことを話し合おう」か。話し合えばいいのなら、手引きの[2]から始めたらどうでしょう。そうすれば早く終わりますけれど……。

主任　しっかり読んで内容をつかんでからでないと、話し合いにならないでしょう。だから、[1]が大事。単元名の下のリード文にも、「登場人物の行動や気持ちの変化をとらえ」とあるわ（※1）。……それにしても、指導事項を考えると、「人物の気持ちの変化を考える」や「場面の様子を想像する」のようになりそうなものなのに、なぜこういう単元名なのかしら。

中堅　私も不思議に思ったのですが、これは、言語活動と関係があるんじゃないでしょうか。主任がおっしゃるように「話し合うためには、読まなければならない」。つまり、この単元名は、詳しく読むことの必然性、子どもが学習へ主体的に取り組むための活動の見通しを示していると。

新採　そうか！「場面ごとに詳しく読むのは、読後の話し合いのため」という、単元全体を通した読みの目的をはっきりさせているってことですね。

中堅　学習指導要領の第3学年及び第4学年「読むこと」の言語活動例ア「物語や詩を読み、感想を述べ合うこと」を受けているんだと思う。

新採　「読むこと」の指導事項ウには「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」とありますね。

> **[1] 読んで考えたことを話し合おう**
>
> 登場人物の行動や気持ちの変化をとらえ，感じたことや考えたことを話し合いましょう。　読む

※1：単元名とリード文（4年下P4）

主任　そうね。それが単元の目標、指導のねらい。自分の感想を話し合うために読み深める……子どもたちにとっては話し合うという目的、つまりゴールのイメージを、単元を通してもち続けることができ、教師にとっては、指導事項の確実な習得に向けて、子どもの主体性を持続させながら授業ができるということね。

新採　これが、よく目にする「単元を貫く言語活動」ってことか。

主任　今までと何がどう変わるのかと思っていたけれど、要は、学びの主体性を促し、子どもたちが自ら進んで楽しく学ぶための活動の提示と考えればいいのね。

中堅　しかも、それが毎時間の学習の目的として意識されていることが大切なのですね。少しすっきりしました。

毎時間の読みに、意欲的な言語活動を

―数日後―

中堅　浮かない顔をしているね。何か悩んでいるの？

新採　物語全体を読み込んで、最後に話し合うという指導計画を立てたものの、私のクラスの実態から考えると、長期間、子どもたちの学習意欲を持続させるのは難しそうなんです。毎時間、意欲をもって、詳しく読めるような工夫を考えたいのですが、思いつかなくて……。

中堅　実は、私もそう。つい、教師主導で引っ張ってしまう。よく読める子は楽しそうなんだけど、全員を夢中にさせる、あるいはせめて全員参加したという実感のもてる活動を工夫したいんだけれど。

主任　毎時間の言語活動を、継続的に入れることには賛成。単元のねらいを達成し、なおかつ作品の特徴を生かした活動を組み込むことが大切だと思う。ちょっと確認しましょうか。単元で身につけさせたい「読むことの能力」はなんだった？

新採　指導事項ウだから……物語の構成を、場所や時間の変化という視点から読み取ること。中心人物（主人公）の「ごん」と、それに対する人物としての「兵十」の設定を読み取ること。物語の展開に応じて変化していく二人の気持ちを読み取ること。「情景」については……。

中堅　文学的な文章では、情景をもとに心情を想像することができますね。心が重いときは何を見てもどんよりしているけれど、うきうきしているときは全てがバラ色に見えるというのは、よくあること。例えば、「1」の場面。雨が降り続いているときと、「空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいて」いるときとでは、「ごん」の気持ちのありようが違って感じられない？

新採　そうか。情景から心情を想像し、作者が意図したその場面のトーンを感じることができるのか。すると、叙述を詳しく読み込むことが必要ですね。

主任　そうね。その前提で、どんな言語活動が毎時間の読みを深めるのか考えてみましょう。子どもと同じ場に立って考えるという意味でも、まずは本文を音読したり視写したりしてみない？

教材の特徴に応じた言語活動の設定

主任　……何度読んでも深いわねえ。子どもたちに気づかせたい言葉や表現がいっぱい。でも、ここが我慢のしどころ。教師の読みを押し付けるのではなく、子ども一人一人が「自分の読み」をもち、それを交流することで、考えを広げたり深めたりする。この流れを、授業の展開にしっかりと位置づけたいですね。

新採　発見があります。子どもの立場になって学習の手引きに取り組んでみたときの気づきです。「言葉」コーナーにある、「思う」と「考える」の使い分けの課題（※2）について考えてみたら、「ごん」が「考える」ところは、「2」の場面の「こんなことを考えながら」と「あなの中で考えました」の二か所だけなんです。あとは全て「思う」でした。

中堅　二か所目には、特に注目したほうがよさそう。「ごん」が「…にちがいない。」と推理を巡らせ、自分のせいで「兵十のおっかあ」が死んだのだと判断するところ。思いついたらすぐ行動に移す、単純で短絡的な「ごん」が自省する場面。物語の方向性を決める重要な部分ですね。

新採　そう、ここから「ごん」の償いが始まる……大きな心情の変化です。

言葉

▼「ごんぎつね」の中で、場面の様子がよく分かる、目にうかぶようだと思う表現をノートに書き写しましょう。

・空はからっと晴れていて、もずの声がキンキンひびいていました。

・人々が通ったあとには、ひがん花がふみ折られていました。

▼「ごんぎつね」には、「思う」と「考える」という、よくにた言葉が出てきます。どのように使い分けられているかを考えましょう。

※2：「言葉」コーナー（4年下P25）

主任　なるほど。ここの扱いを大事にしたいわね。この作品の読みだけにとどまらない、広く汎用できる「読みの能力・言語の力」。国語科で大事にしたいポイントですね。では、「単元を貫く言語活動」である「読んで考えたことを話し合う」ための毎時間の活動はどうしましょう。学習の手引きには、人物の行動と気持ちを場面ごとに書き出した表があるけれど、二人のクラスでは、子どもたちの意欲が持続しないという話だったわね。私も、これだけでは「ごん」と「兵十」の関係が分かりにくいかもしれないと思して、その日の日記を書き続けます。「6」の場面では、「ごん」への手紙を書く、「兵十」や「加助」の会話を想像するなど、やっと結び付いた二人の気持ちに気づかせられるようにして、その後の話し合いに臨ませたいと考えています。

中堅　私は、子どもにヒントをもらいました。「変化」は、折れ線グラフで表せるというもの。ちょうど算数で、変化の様子を折れ線グラフに表したり、変化の特徴を読み取ったりする学習をしていたのです。「ごん」と「兵十」の心情を二つの数量と捉え、場面ごとのグラフを作ってつなげていくというのはどうでしょう。

主任　すごい。それは「心情曲線」と呼ばれる手法よ。基線を何にするか、心情変化の起点を示す叙述をどう読み取るかなど、初めて経験させる場合は、しっかりモデルを示してから始めると、主体的な学習が期待できると思いますよ。

新採　私は、学習の手引きの「書く」コーナー（※3）を参考にして、毎時間、「ごん日記」を書かせたいと思います。この作品は、「1」の場面から「ごん」と「兵十」の関わりが出てくるので、いたずらをした「ごん」、反省する「ごん」、償いをする「ごん」、月のいい晩の「ごん」、引き合わないなあと思う「ごん」というように、場面ごとに「ごん」の気持ちを想像しています。

書く

▼どちらかを選んで、取り組みましょう。

・「6」の後で、「兵十」が「ごん」のことを「加助」に話すとしたら、どのような会話になるでしょうか。二人の会話を想像して、書きましょう。

・「ごん」になったつもりで、「1」から「5」の場面ごとに日記を書きましょう。出来事だけでなく、思ったことや考えたことも想像して書きましょう。

※3：「書く」コーナー（4年下P24）

主任　学習の手引きを、毎時間の活動にうまく盛り込んだわね。書くことは、思考を整理したりまとめたり、筋道をつけたりするのに有効ですからね。想像するときの手がかりを文章中の言葉・表現に求めることを、しっかり指導することですね。「どの言葉から、あなたはそう考えたの」と、考えたことの根拠を明確にして交流させることを大切にね。

新採　そうか。国語科では子どものどんな発言も認めるものと思いがちですが、叙述から根拠を引き出させることで、きちんと評価すればいいのですね。ところで、主任はどんな活動を考えたのですか。

主任　最後が話し合いなので、毎時間、「話すこと・聞くこと」を取り入れようかと。毎時間、子どもが「登場人物のだれか」と「きき手」の役割になって進める、インタビューを構想中です。場合によっては、二人組やグループでの交流にも活用できるかもしれない。いずれにしても、クラスの実態と指導のねらい、教材の特徴を考えて、活動を決定しなくてはね。二人のアイデア、参考にしたいわ。

● ● ●

学年会での具体的なやり取りの中に、教材研究のときに大切にしたい視点を盛り込んでみました。教材を使って確かな読みの力を身につけさせるには、教材研究のためのこうした話し合いの時間がとても大切です。ぜひ、参考にしていただけたらと思います。

こしみず・かおり　広島県生まれ。二十三年の教員生活の後、港区教育委員会指導主事、東京都教育庁主任指導主事、小学校校長等を経て、現職。光村図書小学校『国語』教科書の編集委員を務める。